

① 次のAからCの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

A 気持ちのぴったり合うような相手と、心静かに語り合い、おもしろい話題や人の世の無常^①などを取り上げ、本音を吐いてすっきりするのは、楽しいに決まっている。しかし、そんな相手はいるはずもないので、相手の意に反しないように、気を遣いながら向かい合っているとしたら、逆に孤独感が湧いてくるのではないだろうか。

互いに言いたいことを言い合うと、相手の意見が、なるほど耳を傾ける価値はあるけれども、自分と少し異なる場合もある。そういう相手とは、「自分はそうは思わない」などと反論し、「そういうわけでそうなのだ」などと論じ合ったら、退屈のきにはよいだろうと思うけれども、実際には、人の世を嘆く話題のときでも、自分と少し合わない相手の場合、雑談している間は我慢できるが、ほんとうの心の友に比べると、遠く及ばないものだと思ひ知らされて、なんとも寂しくなってしまう。

(角川書店編『ビギナーズ・クラシックス 徒然草』〈角川文庫〉より)

B そつとしておいてほしい気もちと、

だれかにそばにいてほしい気もち、

ふたつのあいだで、ここがゆれることもある。

きみにとつて、ともだちは、とてもたいせつな存在だ。

いっしょにいと、たのしいし、

だれにも言えないひみつだって、親友になら、打ちあけられる。

だけど、考えがあわなくて、いらいらすることもある。

いやなことをたのまれることだって、ある。

そんなとき、きみは、ひとりのほうがいいや、つて、思ったりする。でも、そんな気もち、長くは続かない。

ひとりであるのにあきてきて、そわそわ、部屋のなかを行ったりきたり。

なんだか、こころぼそいような気さえしてきて、だんだん、ともだちが恋しくなる。

ともだちとつきあうのも、自分自身と向きあうのも、

はじめからすいすいできることじゃない。

いろんなことを学びながら、すこしずつ、できるようになってゆくことだ。

友情も、そう。時間をかけて、ゆつくりこつこつ、築き上げてゆくものなんだ。

(オスカー・ブルニフィエ 著／西宮かおり 訳)

『こども哲学 きもちつて、なに?』〈朝日出版社〉より)

C 考えるということは、ある意味で、自分との対話、ひたすら自分と語り合うことだ。だから、孤独というのは、決して空虚なものではない

くて、とても豊かなものなんだ。もしこのことに気がついたなら、君は、つまらない友だちと過ごす時間が、人生においていかに空虚で無駄な時間か、わかるようになるはずだ。ただ友だちがほしいって外へ

探しに行く前に、まず一人で座って、静かに自分を見つめてごらん。

そんなふうに自分を愛し、孤独を味わえる者同士が、幸運にも出会うことができたなら、そこに生まれる友情こそが素晴らしい。お互いにそれまで一人で考え、考え深めてきた大事な事柄について、語り合い、確認し、③触発し合うことで、いつそう考えを深めてゆくことができるんだ。むしろ全然語り合わなくなつてしまわない。同じものを見ているという信頼があるからだ。

本当の友情を知るといことは、人生のひとつの喜びだ。うわべの付き合いだけの友だちの多さなんかより、たった一人でも、君はそういう友だちを見つけるのがいい。大丈夫、そう思っていれば、必ずそれは見つかるよ。それまでは君は、自分の孤独を、うんと豊かにして待っているんだ。だって、そうでなければ、素晴らしい友だちが現われた時、君は彼に④応えることができないじゃないか。

(池田晶子『14歳からの哲学』ヘトランスビューより)

◎ことばの意味

- ① 無常……人生のはかないこと。
- ② 空虚……かたちだけあって、価値や内容が感じられなくて、むなし
いこと。

- ③ 触発……しげきをあたえて、ある行動や気持ちを起こさせること。

問1 AとBの文章で共通してうったえていること、BとCの文章で共通してうったえていることを、それぞれ一文ずつでまとめなさい。

問2 AからCまでの文章を読んで、「孤独でいること」について、自分の体験を入れてあなたの考えを二〇〇字程度で書きなさい。